

薬剤師にしかできない「あじさいネット」の活用について



*薬業連携、病院の薬剤師とかけつけ薬局の薬剤師との連携

薬業連携の実現に「あじさいネット」を

薬剤師の用語に《薬業連携》があります。私は以前からもっと円滑な薬業連携ができればと考えていました。

例えば、大病院の薬剤部での服薬指導を私たちが薬局が引き継ぎますが、患者さんには大病院と同じような服薬指導を期待されず、私たちが提供したいと考えています。しかし実際は病院の服薬指導の細かい内容やその薬が処方された背景を薬局が知ることは難しい事でした。

薬剤師間で疾患名とか検査名とか分からないことも薬の情報だけでもやりとりができませんかと色々模索していた時に、あじさいネットの講演会を聞きました。患者さまの同意書の取得により包括的に情報共有ができることを知り《薬業連携》の実現にはあじさいネットしかないなと思いました。

長崎市住吉町

たしろ薬局

たしろ ひろゆき
田代 浩幸 先生

TEL: 095-849-6803 mail:tashipha@mail.t-pharmacy.co.jp

例えば患者さんが手術や検査から戻られた後、薬の変更があった際なども、変更された背景があじさいネットを通して分かれますので、私の経験値と併せて、より質の高い服薬指導ができます。またカレンダー表示があるので月一回の診察日を確認して、前後の検査や処置内容が分かるので色々な活用方法があります。

あじさいネットを通して心に残る患者さんがいます。症状が悪化してホスピスに行かれ、ご本人が来られなくなり、娘さんが薬を取りに来られるようになりました。症状の変化をあじさいネットを通して見守り「どうですか」と尋ねて信頼関係を築きフォローすることができました。あじさいネットを通して深く知ることができたからこそ、フォローできた部分も大きいと感じています。その後、娘さんやお孫さんもかけつけ薬局として処方箋を持ってきてくれるようになりました。

薬剤師会がこれからやるべき課題

しかしながら、失敗したこともありまして、同意書を説明するときにどうも誤解されたのか、同意してもらえなかった事が数例あります。説明の仕方は、薬局の場合難しい面があります。今後は薬剤師同士で説明の仕方も含め、利用方法と問題点を共有していくことが必要です。

ところで、薬剤師があじさいネットを通して検査値等を見たとき、それらをきちんと読む知識があるかという残念ながら不足している部分がありますし、レベルの差があります。

●●田代 浩幸 先生 プロフィール ●●

S59年 福岡大学 薬学部 卒業
H4年 たしろ薬局開局
H22年 あじさいネット会員
(長崎市で当初より宮崎県薬剤師会会長とともに入会)

- 長崎県薬剤師会副会長
- P-ネット会員(長崎県薬剤師在宅医療研究会)
- 医療情報学会会員

《趣味》
・自分で12年くらい前からアップルでサーバーを作り、P-ネットのメールリストの運用もしています。「コンピュータでできることはコンピュータでしよう」と。薬歴も管理できますし、他にもイラストレーターを使って書類を編集したりします。
・インターネットを介して、医療関係の仲間(主にドクターが多いです)と医療情報について交流をする中で「あじさいネット」を知りました。

これから薬局会員は徐々に増えていくと思いますので、今後は薬剤師会としてどういった勉強をしていくべきか検討する必要があります。勉強会の中で、あじさいネットを使って、自分の症例を挙げ、具体的にフォローケースをあてることによってスキルアップができればいいですね。

また薬剤師会の中では「あじさいネット」という言葉は知っていても、実際にどういう情報を閲覧できてどういった運用ができるのかを知らない先生方が多いです。

まずはあじさいネットを知ってもらうことが大切と考えています。実際に使っている薬剤師が薬剤師のために、どういう運用ができるのか話すことで、心に響いて伝わることは大きいと思います。

そこで先日は、東彼杵で県薬剤師会会長の宮崎先生が講演を行いましたし、今後も佐世保と長崎で企画しています。

情報提供病院のご紹介

地方独立行政法人 長崎市立病院機構 長崎市立市民病院 医療連携センター

長崎市立市民病院は平成 21 年 11 月に情報提供をスタートしました。
「地域医療支援病院」として、これまで以上に地域の医療機関との連携の強化に努めています。



DOCTOR'S PROFILE

医療連携センター長
入院支援管理部長、診療部長
S59 年 鹿児島大学医学部卒
H5 年 長崎大学医学部大学院卒
専門：消化器、胆、膵、内視鏡手術
癌、血管新生
H24 年 1 月より現職

◆◆ Message / 鬼塚 伸也 先生（医療連携センター長） ◆◆

オープンシステムの利用を推進
当院ではオープンシステム（開放型病床）の利用を推進しています。患者さんが当院に入院された際、紹介施設に送る FAX に「オープンシステム利用のご案内」を併せて送り、かかりつけ医の先生方から利用の返事を受けるとすぐに開放病床の手続きに入ります。一緒に患者さんを診る体制を強化させる事により、充実した医療の提供を目指しています。今後、更にこのシステムを利用して頂くために、今まで手術をやってこられた外科の先生や耳鼻科の先生といった、かかりつけ医の先生方に利用のお願いをしていく予定です。

もちろん内科の先生でも重症例など気になる患者さんでしたら入院して頂いて一緒に診るとい事もしております。あじさいネットは診療所にいながらにして患者さんの情報を閲覧して術後の経過等も分かりますから、開放型病床にも大変有効ですね。

地域全体が一つの総合病院に

私が長崎医療センター勤務時代にあじさいネットができました。その後、出島病院に異動し今年の一月から長崎市立市民病院に勤務しています。あじさいネットは稼働当初から知っています。情報提供する側と閲覧する側のどちらも経験した訳ですが、一言でいうとあじさいネットは非常にいいシステムだと思います。閲覧側にとつては、自分の診断のフィードバックにもなりますし、最新の治療法を勉強できる教育的な面も大きいと思います。

今ではもう病院完結型ではなく、地域完結型の時代だと感じています。患者さんを地域全部の病院がみていくという感覚が必要です。地域全体をいけば一つの大きな総合病院のようなイメージとして捉え、専門性において機能分担を図ったり、病院同士の空床管理を地域全体で行ったりして、地域の医療を支えていくことが求められていると思います。そうした中で情報の共有化を行い、地域の医療機関をつなぐシステムとして、あじさいネットは役立っていくと考えています。

セキュリティの確保が重要

セキュリティは厳しい程いいと、あじさいネット準備委員会（*1）でも連言しております。現在、病病連携が準備中ですが、交通規則が日本どこでも同じのように、あじさいネットに参加している病院はこの病院でも同じ規則を設けることが必要不可欠です。規則に違反したらペナルティを課す、違反を犯したらしばらく



左から鬼塚 先生、染田 看護師長(副主幹)、堤(事務)、手水 (医療ソーシャルワーカー)、後列左から、福富 (事務)、泉田 (企画課システム担当)、石熊 (事務)。

■ 6 月に設立した入院支援センターには持参薬管理センターを併設しています。

● 医療連携センターより

医療連携センターは、地域の医療機関や社会福祉施設などと円滑な連携を図り、患者さんへのサービスの向上を目指しています。開放病床の利用の推進、事前カルテの作成、地域の先生方への確実な返信への働きかけなどを行っています。

《診療所の先生方へ》

同意書等については、特に問題なく円滑な運用が出来ているように思います。

《改善してほしい点》

閲覧の有効期限が、画面をみて一目で分かるように表示して頂けたら助かります。

情報提供病院のご紹介

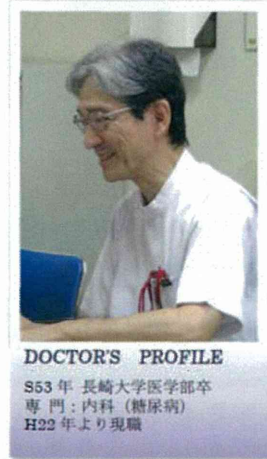
日本赤十字社

長崎原爆病院 地域医療連携課

長崎原爆病院は、平成 21 年 11 月に情報提供をスタートしました。

「赤十字の使命のもとに、地域並びに被爆者の皆様へ良質な医療を提供」が病院の理念です。

◆◆ Message / 上田 康雄 副院長 (医療社会事業部長) ◆◆



DOCTOR'S PROFILE

S53 年 長崎大学医学部卒
専門：内科 (糖尿病)
H22 年より現職

かかりつけの先生方と連携 地域全体で支えていく

当院では積極的に逆紹介を進めています。かかりつけの先生方と日頃より連携を図り、地域全体で患者さんを支えていけるような様々な取組を行っています。

病診連携室の職員と共に、診療所を訪問する活動をしてきました。こういった活動かといいますが、当院によくご紹介頂いているかかりつけの先生方を訪問し、地域連携へのご意見やご要望を伺うとともに、地域連携をこれからどういったものにしていくべきかについて話し合い、それらを当院に持ち帰りその後の連携に活かすといった取組みです。

重症の患者さんに常時対応するためには、ベッドのスムーズな運用が必要不可欠です。7月より「入退院支援センター」を設け、今までは独立していた入院部門と病床管理と退院部門を一貫した入退院管理に致しました。各病棟の専門性は認めた上で、原則として「混合病棟」としました。

病床管理担当の師長は他の仕事と兼任でしたが、去年から専任にし、各病棟の師長がどこに入れるかを話し合っており、空床があればどこにでも入院できるというシステムを始めたところ、非常に入院しやすく、スムーズにいくようになりましたね。

退院前に「あじさいネット」の 同意取得で切れ目ない診療を

最近、在宅医療移行前に行う退院カンファランスの際に当院の病棟であじさいネットの同意書を取って、患者さんが在宅に戻られてからも、切れ目ない診療を続けるような使い方をされるかかりつけの先生が増えてきています。奥平先生とか谷川先生といった在宅医療を受け入れる先生方で、「あじさいネット」を上手に活用して頂いている先生方が近隣に多いですね。

●あじさいネットに期待する事

現在、準備中の病診連携は是非やって頂きたいです。それと閲覧されるばかりなので、情報提供病院側も診療所の情報を共有できたらいいですね。例えば診療所が行う検査の中には、長崎市医師会の検査センター等に依頼する場合があります。そういった情報を当院で閲覧できると、より継続的に検査値を把握できるのでいいですね。

放射線科の先生が自宅であじさいネットを閲覧できたらいいですね。お忙しい先生方に、救急時には相談のため来て頂いておりますので、自宅で閲覧、読影し連絡を取り合うことができたら助かります。

●地域医療連携課より

《診療所の先生方へ》

一つの診療所が複数の病院に同時に情報提供の同意書を送付する際に、二重登録を防ぐためにも、同意書の優先順位欄に番号を記入頂くか、同時に送付された情報提供病院の担当の方に当院にご一報頂けたら助かります。また、当院が日曜、祝祭日がお休みなので、夕方5時以降にファックスを頂いた方は、翌業務日の処理になりますのでよろしくお願致します。

《障害発生時の対応》

SECの伊藤さんによく対応して頂いています。ケースによっては当院のシステム担当と連携して迅速な対応に努めています。また近隣のDaijinkoの病院の実務担当の方と連絡をとりあっています。

《その他》

診療所の並びを、医療法人がついているので五〇音順にして頂ければ助かります。



左から地域医療連携課 高比良課長
上田副院長 (医療社会事業部長を兼務)
地域医療連携課 戎屋、浦瀬

■入退院支援センターは、当院の薬局の前の新しいブースに設けています。



「あじさいネット」キーパーソンに聞く

長崎県 福祉保健部 向原 茂明 参事監
「医療と介護・福祉をつなぐツール」として、あじさいネットに期待



DOCTOR'S PROFILE

S51年 北里大学医学部卒業
S62～H16年 国立病院長崎医療センター勤務
*国立病院長崎医療センター 副院長時にあじさいネット
立ち上げに携わる
H16～18年 長崎県立島原病院院長
H19年 長崎県入庁
*現在、長崎県福祉保健部参事監（医療保健担当）兼
県央保健所長

専門：総合診療科、地域医療
趣味：囲碁、（ヘタな）ゴルフ、旅行



医療の分野でのIT活用はこれからです。医療は元々広域的なサービスではなく地域特性が求められますので、市町村単位や医師会単位での検討が必要です。最近、医療機関間をITでつなぐというモデル的な取組みが全国的に広がっていました。運用が難しい事例が多い、そういう中で「あじさいネット」が八年目にはいつてます。まず進化、拡張してきている事は全国的にみてもまれて成功事例です。厚労省の方との会議の中でも「あじさいネット」といえば通じるようになりました。

「あじさいネット」が芽吹き成長した理由
私は国立病院機構長崎医療センターに在職中にあじさいネットの立ち上げに携わりました。最初にシステム在りきで後から人がついてくるのではなく、最初に在りきでその後ITがツールとして活用されてきた。この順番が非常に重要だと思います。

その当時、松本先生、木村先生、柴田先生といったITに詳しい先生がいてITという道具が活かせるようになった。私なんかはアナログ人間だから、ITは得意じゃないけど人をつなぐのは得意だった。そういうそれぞれ得意分野をもった人たちが、たまたまあの時代に大村において、市医師会にも小尾先生をはじめとして非常に熱心に推進してくれる先生

方がいたからあじさいネットがうまく育ったのだと思います。

「あじさいネット」はここまで育つのに八年かかりましたが、時間をかけて築き上げた人と人とのつながりに芽吹いたので、いわば二十年くらいの人間関係の上になり立つシステムであるといつて過言じゃない、そう聞くとも深いでしょう。

長崎県の医療分野でのIT戦略
私は平成十九年に県に入庁しました。ちょうどその頃、国のIT戦略で医療のIT化を進めようという気運が数年前から生まれてきており、県の行政としてもIT化推進の動きがありました。現在、地域医療再生基金を使って地域医療再生のための予算を組んでいます。予算の一例は、従来離島での救急医療発生時は、本土へ搬送するかどうかの判断のため画像伝送を利用していました。今後はこれを進化させ「より質の高い画像伝送により診断を含めた治療の相談ができる」そんなシステムをあじさいネットの情報ネットワークを利用して構築するプロジェクトなどが予定されています。

在宅医療に期待する事
行政としてあじさいネットに期待する事はありました。長崎市には全国でも先進的なシステムとして注目されている「長崎在宅Dr. ネット」があります。国も在宅医療を推進する動きですので今後は、医療と福祉・介護をつなぎたいと考えています。

退院すると医療から生活の場に移ります。障害や一般生活に支障のある状態での移行はよくあります。このため今後は「急性期に携わる医療関係者が、生活の場で何が必要かを知る」そして「介護や福祉に携わる医療関係者が、生活の場に必要医療情報を把握する」そのようなシステムが必要で

医療の現場は高齢化や人手不足といった問題により、今後救急医療体制を含め多くの危惧をはらんでいます。人が幸せな一生を送れるように、例えば最期を迎える場所に家を望んでおられる方でも「家族に迷惑をかけたくない」「近所に迷惑をかけたくない」「夜中に苦しくなったときお医者さんはどうしよう」といった理由でとりあえず病院に入院されています。その方が望む医療を提供するために医療と福祉・介護の情報共有は有効だと思います。

今後、こういったITを使ったネットワークは非常に大きな力になると思います。ただそれが主流じゃない、人が主流であり、情報ネットワークはあくまでもツールの一つであり、それを活用して安心して暮らしていけるような医療体制を築いていく視点が重要だと思っています。

このことが一番行政として伝えたいところです。

今年、あじさいネットは佐世保地域にも広がりました。あじさいネットは医師会や多くの医療関係者により運営されており、県はサポートとして動いていますが、今後、広く県民に役立つようなシステムに育っていくことを願っています。

《あじさいニュース》

- 佐世保市立総合病院、佐世保中央病院が7月23日にテスト運用を開始しました。
- 佐世保共済病院、長崎労災病院が運用開始予定です。
- 東彼杵郡医師会が7月28日に入会しました。
- 諫早医師会が10月1日に入会予定です。

《情報提供病院のあじさいネット登録受付時間》

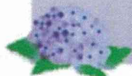
地域	病院名	あじさいネット登録受付時間		TEL	FAX
		平日(月～金)	土・日・祝祭日		
県央	長崎医療センター	8:30～17:00	—	0120-731-062	0120-731-063
	市立大村市民病院	8:30～17:15	—	0957-52-1800	0120-378-375
	長崎川棚医療センター	8:30～17:15	—	0956-82-6420	0120-82-2970
長崎	光晴会病院	8:30～17:00	(土)8:30～12:00	095-857-3563	0120-573-632
	十善会病院	9:00～17:00	—	095-821-1214	095-818-5388
	長崎大学病院	9:00～17:00	—	095-819-7930	095-819-7305
	長崎市立市民病院	8:30～17:00	—	095-822-3251	095-821-1116
	日赤長崎原爆病院	8:30～17:00	—	0120-845-261	0120-845-262
	済生会長崎病院	8:30～17:15	(土)8:30～13:00	095-827-7021	095-827-7025
	聖フランシスコ病院	9:00～17:00	(土)9:00～12:00	095-846-2553	095-845-7600
	井上病院	9:00～17:00	(土)9:00～12:00	095-844-1281	095-849-6622
	長崎記念病院	8:30～17:00	—	095-871-1515	095-871-1510
	長崎北病院	9:00～17:00	(土)9:00～12:00	095-886-8700	095-886-8707
上五島	上五島病院	8:30～17:15	—	0959-52-3000	0959-52-8150
佐世保	佐世保市立総合病院	8:30～17:15	—	0956-24-1515	0956-22-8657
	佐世保中央病院	8:30～18:00	(土)8:30～12:30	0120-33-8293	0800-7000-070

表紙撮影☆談話

9月15日(土)に北海道・旭川で医師会主催の地域医療ネットワークの市民フォーラムが開催されました。あじさいネットの代表として、小尾会長、牟田先生、松本先生と私の4人で参加させていただきました。

写真は、この時に大雪山・旭岳の姿見駅から撮ったものです。例年だと見事な紅葉が見れる時期ですが、今年は少し遅れていました。旭岳は標高2,291mで北海道では一番高い山です。旭川では、旭岳のように北海道で一番の地域医療ネットワークを作り上げようと山下医師会長を先頭に頑張っておられました。

記) 長崎医療センター・木村 博典



◆協賛メーカー◆

HOGY

一步先の手術室環境づくりをお手伝いします。

ホギメディカルでは、不織布・キット製品など感染対策製品および理想的な病院経営を総合的にサポートする手術管理システムをご提供しております。

国内最大級の生産・滅菌システムと全国25箇所の営業所ネットワークによって安定的な製品提供ならびにお客様サポートで「安心」をお届けしております。

株式会社 **ホギメディカル**

本社：東京都港区赤坂2-7-7 TEL:03-6229-1300 FAX:03-6229-1344



Empowered by Innovation **NEC**

地域に分散した診療情報を統合して共有するネットワークサービスで地域医療連携をご支援します。


NECの地域医療連携ネットワークサービス

まずはWebで、詳細情報をご覧ください。 [NECの地域医療連携](http://www.nec.co.jp/mednet) [請求]

お問い合わせは、NEC(医療ソリューション事業部)へ
〒108-8001 東京都港区芝五丁目7-1(NEC本社ビル) TEL. 03(3798)6750

http://www.nec.co.jp/

人と地球にやさしい情報社会へ



Good Health Creator, MEDICAL+sciENCE

独自の事業スタイルを基盤としてヘルスケア分野に新たな潮流を生み出します。

東日本と関東12の株式会社を対し、選んでお見合い申し上げます。地域地の一歩も早い技術をお送り申し上げます。

三菱化学メディエンス

産製株式会社
研究開発
医薬品開発支援事業

事業内容

- 臨床検査 (生化学的検査・血液学的検査・生化学的検査・遺伝学的検査・遺伝子関連検査・病理学的検査・その他検査)
- 予診医学関連サービス
- 医療関連サービス
- 体外診断用医薬品・体外診断用機器・試薬等の開発・製造・販売及び輸出入
- 医薬品・化学品の毒性試験、急性毒性試験
- 化粧品・医薬部外品
- 医薬品・医薬・化粧品・食品添加物・化粧品等における安全性評価・確証リスク評価サービス
- 食の安全サポート
- ドーピング検査

三菱化学メディエンス株式会社
〒108-8559 東京都港区芝浦四丁目2番6号
TEL:03(6722)4000(代表)

あじさいネット入会方法のご案内

1. 入会

入会申込書を事務局宛に送っていただきます。
所属医師会が入会している場合は個人の入会金は無料です。
所属医師会が入会していない場合は、入会金が **50,000円** 必要となります。尚、初期設定費用として別途 **30,000円** を承ります。

2. 利用料金

月々 **4,000円** (レセプトオンライン請求も希望の場合は 5,000円) と年 **3,000円** のウイルス対策ソフトライセンス料が必要です。ウイルス対策ソフトライセンス料とあわせて年間一括払いをお願い致します。

3. 機器の設置

機器設置用ヒアリングシートに必要事項をご記入の上、事務局宛にファックスまたは郵送願います。
シートに基づいて専門スタッフ (NTT 西日本ホームテクノ九州) が設置、動作確認に参ります。

4. 運用講習会

利用法の運用講習会です。講習後『講習会受講修了証』とアクセス専用 ID と仮パスワードをお渡し致します。

5. 同意書と登録

患者さまにあじさいネットに関する説明を行い、あじさいネットに参加するための同意書をご記入いただけます。取得した同意書は診療情報閲覧を希望する情報提供病院の医療連携室宛にファックスで送付して下さい。約 10 分後に連携室より手続き終了の FAX が届きます。この段階で利用可能です。

6. あじさいネットポータルサイトへのログイン

アクセス専用 ID・パスワードにてあじさいネットのポータルサイトにログインし、同意を得た患者さまの診療情報を閲覧することができます。

*手続き上、必要な様式ならびに同意書につきましては HP からダウンロードできます。

あじさいな人々

たくまかずひこ



中山先生は3ページでご紹介させて頂いています。読者先生いつも楽しい作品ありがとうございます。

入会等に関するお問い合わせ先

あじさいネット事務局(長崎県医師会事務局内)担当: 三浦、苑田
電話 095-844-1111 FAX 095-844-1110

編集後記

7月23日、ついに佐世保地区の「あじさいネット」のテスト運用が始まりました。まずは佐世保市立総合病院と佐世保中央病院が運用を始め、10月には佐世保共済病院が、そして年度内には長崎労災病院も開始できそうです。また、諫早総合病院も参加を表明されましたので、これであじさいネットは県内ほぼ全域に広がりました。なお、あじさいネットには、新規入会時の入会金が免除される「医師会入会」制度があります。これはあじさいネットの取り組みを、郡市医師会単位でご支援を頂こうと、8年前の発足当初から推進しているものですが、広域化に伴い医師会入会も増えました。現在、大村市医師会、長崎県病院企業団、長崎市医師会、佐世保市医師会、東彼医師会(入会順)に加え諫早医師会も入会準備に入ったところです。地域の主要拠点病院と地域医師会の参加により、ますますあじさいネットは発展するものと期待されます。

なお、新規の情報提供病院に対しては、機器導入から運用開始まで「あじさいネット拡充プロジェクト室」がサポートしています。ご不明、ご心配な点がございましたらご相談ください。

*ご感想は、あじさいネット事務局「aj-na@nagasaki.med.or.jp」までお願いいたします。

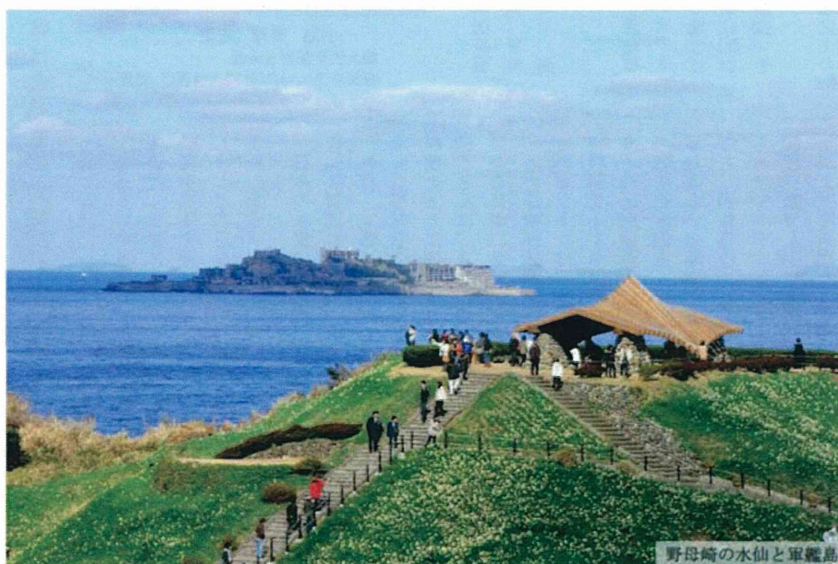
あじさいネット OFF LINE 通信 編集長 松本 武浩

広報誌に関わるご意見・ご要望は、長崎県医師会 長崎県あじさいネット拡充プロジェクト室までお寄せください。
電話 095-894-9655 FAX 095-894-9651 aj-na@nagasaki.med.or.jp
最新の情報は、HP をご覧ください。 <http://www.ajisai-net.org/>



あじさいネット OFF LINE 通信

vol. 5



野母崎の水仙と軍艦島

写真提供：野川 辰彦 先生(済生会長崎病院 院長)

目次

年頭所感 あじさいネット会長	小尾 重厚 先生	2
会員様の声		
おおすみ内科医院	大角 光彦 先生	3
ハシモト耳鼻咽喉科医院	橋本 清 先生	4
久原薬局	菱輪 博徳 先生	5
情報提供病院のご紹介		
済生会長崎病院 地域連携推進室		6
井上病院 診療支援・地域連携室		7
あじさいニュース 第5回「あじさいネット」記者会見		8

現在の運用状況

(平成 24 年 12 月 15 日現在)
 患者登録数 24,806 名
 (全件あじさいネット説明同意書取得済み)
 会員数 276 名
 情報閲覧施設数 164 施設
 (内、薬局数 24)
 情報提供病院数 17 施設

賛助会員

- (株)ホギメディカル福岡営業所
- 日本電気(株)医療ソリューション事業部
- 三菱化学メディエンス(株)
- 富士通(株)長崎支店
- (株)NTT データ ライフサポート事業本部

基本理念

地域に発生する診療情報を患者さまの同意のもと、複数の医療機関で共有することによって各施設における検査、診断、治療内容、説明内容を正確に理解し、診療に反映させることで安全で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指すものです。

NPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会

『年頭所感』

あじさいネットワーク会長 小尾 重厚 先生

「今年は更なる飛躍の年になるものと確信しています。」



NPO 法人
長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会会長

小尾 重厚 先生

■大村市医師会会長

■医療法人 おび産婦人科医院 院長

昨年は、NPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会、呼称「あじさいネット」にとりまして、画期的な一年となりました。

平成二十四年十月一日の佐世保地域での運用開始により「あじさいネット」が、ほぼ県下全域に展開される運びになった事は、当初からこの事業に関わってきた者の一人として、感慨深いものがありました。

既に各地域部会で、夫々の地区での運営も開始されています。

今年は更なる飛躍の年になるものと確信しています。

あじさいネットが、長崎県全体をほぼ網羅した事に伴い、十一月二十六日に記者会見を行いました。その際に話しました内容を抜粋し、新春の御挨拶と致します。

日本の医療は、世界に誇る公的国民皆保険制度のもとに、保険証一枚持参すれば、「誰でもが、いつでも、どこでも、安心して医療機関を受診できる」制度のもとに運営されていますので、患者さんは、目的に応じて種々の医療機関を自由に受診する事が出来ます。

この医療保険制度のもとに、「あじさいネット」は、基幹病院と地域の医療機関をITネットワークでつなぎ、多くの医療情報を共有する事で、医療の効率化を図るとともに、「患者さんがお住まいの地域のどの病院を受診しても、切れ目なく安心して医療を受けられるシステム」、「医師会会員であれば、誰でもが、簡便に参加できるシステム」を目指し、発足いたしました。平成一六年十月に大村・諫早地区を



中心に始まったあじさいネットは、約四年後には長崎市医師会や離島の施設も加入し、今回、佐世保市医師会の参加によって、名実ともに、長崎県下をほぼ網羅するIT医療連携ネットワークへと成長いたしました。

システム等が、長崎県、長崎県医師会他、関係機関と協同して計画され、進行しています。

従来、夢のような世界であったシーンがまさに現実化されようとしています。

これらの取組みにより、従来の病院完結型医療から、互いに顔が見える、地域全体で様々な施設が連携して患者さんを診る医療、いわゆる地域完結型医療への転換を図れるものと思えます。

現在、情報提供病院は17医療機関で、4病院が準備中です。情報閲覧施設は病医院や薬局を含めて164施設になりました。現在まであじさいネットに参加同意頂いた総登録患者数は、既に約2万4000人を超え、毎月約500名規模で増え続けています。

我々と致しましても、このあじさいネットワークを更に発展充実したものとし、地域住民の方々が安心して医療を受けられるように、鋭意努力していく所存であります。

今回、佐世保地域の参加により、全県下にまたがる「単一ルールによる」ネットワークがほぼ完成しました。

平成二十五年 吉日

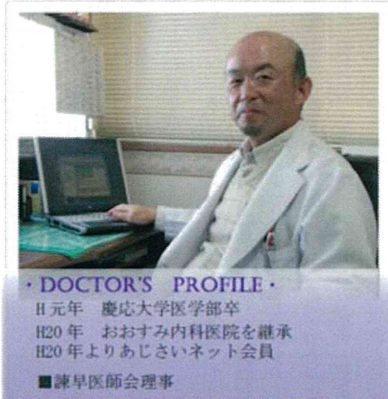
今後は、このネットワークを利用した多くの付加サービスが考えられます。離島医療・救急医療支援システム、高品質遠隔画像診断システム、周産期・小児発達支援情報ネットワークシステム（高リスク妊婦診療支援など）、専門カンファレンス中継、テレビ会議



小尾先生は、立上げ時よりあじさいネットユーザーです。普段の診療に役立っています。



地域の医療資源の有効活用には「あじさいネット」は欠かせません。



・DOCTOR'S PROFILE・
H元年 慶応大学医学部卒
H20年 おおすみ内科医院を継承
H20年よりあじさいネット会員
■諫早医師会理事

諫早市山川町
おおすみ内科医院 大角 光彦 先生

TEL : 0957-26-5377

あじさいネット立上げ時、長崎医療センターで内科医長をしていました。以前から医療連携ネットワークには興味がありましたし、あじさいネットの準備段階から関わっていたので、開業時は自然の成り行きで入会しました。

病診連携、診診連携を積極的にしています。そのツールとして、あじさいネットは普段から利用しています。

地域の医療資源をより有効に活用して診療を行っていきたくと考えています。そのため病診連携、診診連携は普段から積極的に行っています。紹介は日常的ですから年間千件くらいになっていると思います。

そんな中、あじさいネットは普段からよく利用しています。長崎医療センターなど基幹病院に紹介して、MRI、CTの画像を参照

し、同時に専門医の読影結果を確認しています。また、当院でその患者さんを今後どうマネジメントしていくかを考える時、合併症など付随した問題を持つている方が大勢いらっしゃるのでも総合的に診る必要があります。あじさいネットを利用すると、多くの情報の中からこちらが求める情報を的確に把握することができます。他には、かかりつけの患者さんが緊急入院した時の経過を把握し、見舞いに出掛けたり、患者さん及びその家族に説明したりすることもあります。

●あじさいネットに期待すること

双方向性の情報のやりとりを

例えば当院のカルテ情報や検査データや医療センターから参照してもらおうといったことがあじさいネットを通してできれば、紹介する場合も紹介状を簡略化できます。

災害時の対策に
あじさいネットを

去年の震災時にすぐ思ったことは、災害時に備えてカルテ情報を一元的に集約する必要があります。震災では多くの医療機関が機能しなくなり、カルテも失われました。被災者の中にはそれぞれ色んな病気を持つ方がおられ、そんな時に「どういう病気が?」「どういう薬を使っていたか?」といった事が誰も分からないことが発生しました。初対面の患者さんで例えば「糖尿病の薬を飲んでいました。」

と言われても、どの程度の糖尿病であって、どういう薬が必要かはすぐには判断できません。そこで、高セキュリティなネットワーク上で一元的にカルテ情報を集約し、それらを更にバックアップをとっていたら大災害が起こってもその患者さんのことがすぐ分かり対処できます。そういった視点からもあじさいネットは非常に有効だと思っています。

Q、信条を教えてください!

長崎医療センターの看護理念に「その人がその人らしく」というものがあります。それは提供する側の考え方や方針とかではなくて、「その人がその人らしく人生をまっとうするためのお手伝いをする」ということが医療の本来の在りかたであるというものです。

例えば救急で基幹病院に搬送されてきた患者さんと基幹病院の医師はそこで初めて出会うことが多いわけです。このため患者さんがどう思われているのか(「どういった治療を望まれているか」)分からないまま救急処置、延命処置を行わざるを得ない場合があります。

私たち開業医は、長い年月その方のかかりつけ医になります。そうした中で普段からコミュニケーションをとり、お互い理解し合い、その方の考え方、生き方と照らし合わせて、その人が求めている医療を実践していく訳です。自分のところに縁があって来られている患者さんに対して、その人がその人らしく人生をまっとうするためのお手伝いをしていきたいと、そう思っています。